

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「後世に残そう森・水・いのち」志賀高原森林再生事業
事業主体 (連絡先)	信州・志賀高原から始まる市川海老蔵いのちを守る森づくり=ABMORI 実行委員会 (事務局 山ノ内町農林課 0269-33-3112)
事業区分	(5) 環境保全及び景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	10,388,426 円 (うち支援金: 3,434,000 円)

事業内容

1. 育苗活動

志賀高原ユネスコエコパークの核心地域での森林再生を目的として、どんぐりからの苗づくり、苗の採取活動、モニタリング活動をユネスコスクール(東小学校及び中野西高校)の環境学習活動として実施。

2. 植樹活動

育苗を行う小学生や全国からの参加者による閉鎖スキー場の森林再生のための植樹活動を実施。

3. サテライト活動

ABMORI の活動について、認知度を上げることで継続的かつ効果的に広く周知するため中学生が行う人的交流活動に併せて行う植樹活動を実施



【7/29 植樹イベント】

【目標・ねらい】

- ① 自生種(苗)による森林再生
- ② 閉鎖スキー場の森林再生
- ③ 日本生態学会での研究発表
- ④ 当事業による学習プログラムの卒業生
- ⑤ 他地域への波及

事業効果

- 地元小学生による苗づくり、高校生によるモニタリング調査が3年目に入り、継続的な環境学習プログラム造成の手がかりとなった。
- 育苗については、児童たちが昨年の反省も踏まえた中で今年の事業にも望むことができていること、モニタリング調査も植樹イベント時の植樹リーダーと併せて参加する生徒も増え、志賀高原が地域のユネスコスクールの環境学習の場として定着してきている。
- サテライト事業については、他地域への波及を目指す第一歩となった。

※自己評価【 A 】

【理由】

中野西高校生徒の植樹リーダー・モニタリングへの取組みが積極的に行われた。
サテライト事業により、他地域へ波及させるきっかけとなった。

今後の取り組み

苗の育成(苗づくりとモニタリング)を継続し、植樹で使用する苗の育成を継続することで事業全体の予算縮減を図るとともに小学校から高校までの志賀高原における環境学習プログラムの構築を図る。

当事業による経験や成果について記録を残し、他地域へ波及させるためのモデルとして継続させる。また、地域産業の活性化のため、町内への宿泊数の増加を期待したい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある